

平成23年度  
(平成22年度分)

# 事務事業評価票

A 一般型

No. 1030118

重点評価

## I 事業の概要

### I-1 事業の概要

事務事業名 ホムヘーシ'ア'レス	生ごみ3R推進事業	所管局部課等	環境政策局循環型社会推進部循環企画課
		(連絡先)	213-4930
		(評価票作成者)	循環企画課長 牧村雅史

22決算額 (千円)	23予算額 (千円)	今後の方向性 <b>充実</b>	24予算額 (千円)	目標達成度評価 指標：一般廃棄物の市受入量に含まれる生ごみの排出量
-	9,800		38,600	<input type="checkbox"/> かなり悪い <input type="checkbox"/> 悪い <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> かなり 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% 110% 120% H20年度 H21年度 H22年度
業務運営方法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 部分委託 <input type="checkbox"/> 部分補助等 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 全部補助等	委託(補助)先の名称, 委託(補助)の内容 (名称) 株式会社エックス都市研究所 (内容) 生ごみ減量対策調査, 生ごみの3R検討会支援, 普及啓発媒体作成		事務事業の性格 <input type="checkbox"/> 義務的事業 <input checked="" type="checkbox"/> 任意的事業 類型 11 その他
実施根拠 (法令, 条例, 規則, 要綱等)	京都市循環型社会推進基本計画 (2009-2020) 京都市バイオマス活用推進計画 (2011-2020)		会計区分	<input checked="" type="checkbox"/> 一般会計 <input type="checkbox"/> 特別会計
開始時期	平成 23 年度	終了(予定)時期	平成 年度	

事業概要	対象	(誰を, 何を) 燃やすごみ, 事業ごみとともに焼却されているごみに占める割合が高い生ごみ
	活内 内容	(どのような手段で) 生ごみの3R(発生抑制, 再使用, 再利用)を検討するための調査を行い, 市民や事業者による検討会を開催するとともに, 普及啓発を進めていく。
	目的	(どのような状態にしたいのか) 生ごみについて, 焼却量を削減し, 3Rの推進を目指す。

### I-2 投入量

年間経費等推移 (千円)	No.	区分	H20年度決算	H21年度決算	H22年度決算	H23年度予算	H24年度予算	
	①	事業費	(千円)				9,800	38,600
需用費(印刷費, 光熱水費)							2,410	
役務費							7	
①' 委託料		生ごみ減量普及啓発, 堆肥化等				9,800	36,183	
②		委託料が事業費に占める割合(①' ÷ ①) (%)				100.0%	93.7%	
③		人件費(24年度は見込)	(千円)				6,337	6,116
		職員(課長級)	(人)				0.03	0.10
		職員(課長補佐級, 係長級)	(人)				0.29	0.19
		職員(係員)	(人)				0.37	0.37
		嘱託職員等人件費	(千円)					
④	年間経費(①+③)	(千円)				16,137	44,716	
⑤	特定財源(市税等の一般財源以外)	(千円)				9,800	38,600	
	国庫・府支出金	(千円)						
	受益者負担分(使用料, 手数料等)	(千円)						
	その他(基金繰入金)	(千円)				9,800	38,600	
⑥	京都市年間負担経費(④-⑤)	(千円)				6,337	6,116	
⑦	受益者負担率(受益者負担分÷④)	(%)				0.0%	0.0%	

平成23年度  
(平成22年度分)

事業名 生ごみ3R推進事業

II 評価結果

II-1 市民と行政の役割分担評価

評価実施年度 **23** 年度

A 公共性	(公益性)	(必需性)	『公共性評価』 必需 個人消費性(私益) / 共同消費性(公益) ②必需・個人消費性 / ①必需・共同消費性 ③選択・個人消費性 / ④選択・共同消費性 選択
	<input checked="" type="checkbox"/> より多くの市民に提供されるサービス  <input type="checkbox"/> 特定の個人又は集団に提供されるサービス	<input type="checkbox"/> 日常生活に必要不可欠なサービス  <input checked="" type="checkbox"/> 日常生活に必要不可欠でないサービス	
B 行政関与の妥当性	関与の妥当性の程度(高・中・低) <b>高</b>		(判断理由) 京都市循環型社会推進基本計画(2009-2020)に掲げるごみ半減目標を達成するためには、ごみの約4割を占める生ごみの3Rの取組を加速化させることが不可欠であり、そのためには、行政が市民、事業者等のコーディネートすることで、市民ぐるみの取組にする必要がある。
C 受益者(サービスを受ける側)負担の妥当性	(負担を求める必要性) <b>無</b>	(見直しの必要性) <b>無</b>	(判断理由) 特定の個人が受益者となる事業ではないため。
D 実施主体(サービスを行う側)の妥当性	(政策性)	(行政専門性)	『実施主体の妥当性評価』 行政専門性 / 政策形成・意思決定 ②経常的・行政専門性 / ①政策的・行政専門性 ③経常的・一般専門性 / ④政策的・一般専門性 一般専門性
	<input type="checkbox"/> 政策的意思決定を必要とするサービス  <input checked="" type="checkbox"/> 経常業務の度合いが高いサービス	<input type="checkbox"/> 行政上の専門知識を必要とするサービス  <input checked="" type="checkbox"/> 行政上の専門知識を必要としないサービス	
その他	事務事業実施上の課題、環境等外部要因の変化等	生ごみについては、家庭系はこれまで取組が不十分な発生抑制を促進する対策、事業系は3Rに取組むことができていない事業者の取組を促進するための方策が必要である。 食品リサイクル法が平成19年に改正され、認定計画に従って行う食品循環資源の収集運搬については、廃棄物処理法に基づく、一般廃棄物収集運搬業の許可が不要となるなど、生ごみの3R推進に向けた動きが加速しつつある。	
	当該事務事業を廃止・休止した場合の影響	生ごみの減量が図れず、京都市循環型社会推進基本計画に掲げるごみ量の削減目標の達成が極めて困難になる。	
	どのような状態になれば事務事業の廃止を検討するのか	生ごみの3Rの取組が社会に十分に浸透した場合に検討する。	
	他の自治体の動向	<取組・見直し状況等> 生ごみの3Rについては、各自治体とも共通の課題としてとらえているが、決定的な対策がないのが現状である。先行事例として、福井県や千葉県等の食べ切り運動、札幌市の「生ごみ減量・水切り宣言」、また、全国で堆肥化が試みられている。	

II 評価結果

事業名 生ごみ3R推進事業

II-2 業績評価

A 目標達成度	指標名	区分	単位	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度
指標1	一般廃棄物の市受入量に含まれる生ごみの排出量	目標値 …①	トン				175,000	171,000
		実績値 …②	トン					
		目標達成度 (②÷①)	%					
	指標の種類	減少することが良いとされる指標	評価					
指標2		目標値 …①						
		実績値 …②						
		目標達成度 (②÷①)	%					
	指標の種類		評価					
			総合評価					

指標の選択理由		目標値設定の考え方	
指標1	本事業の目的である生ごみの3R（発生抑制，再利用，再資源化）が行われ，生ごみが減量状況したかを把握するために，最も適切であると考えられるため。	京都市循環型社会推進基本計画(2009-2020)に係る行動計画の目標値を引用	
指標変更の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	指標名	適用年度 単位
指標2			
指標変更の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	指標名	適用年度 単位
分析	<実績値の変動理由等>		

B 効率性	No.	区分	単位	H20年度	H21年度	H22年度
	①	一般廃棄物の市受入量に含まれる生ごみの排出量	トン			
	②	年間経費（事業費及び人件費の合計額）	千円			
	③	単位当たり経費（②÷①×1,000円）	円/単位			
	④	単位当たり経費変動率				
			評価			
分析	<コスト変動の理由等>					

C 市民参加度	企画段階 <input type="checkbox"/> 高 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低 <input type="checkbox"/> 無	<現状分析，今後の方針等> 市民，事業者等が参画した検討会を開催し，市民ぐるみの取組を推進する。
	実施段階 <input checked="" type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低 <input type="checkbox"/> 無	
	評価段階 <input checked="" type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低 <input type="checkbox"/> 無	
D 市民満足度	<調査の有無> <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない	<調査結果，現状分析等>
	<調査方法> <調査時期>	
E 環境保全及び環境負荷軽減の要素	<input checked="" type="checkbox"/> 環境 <input type="checkbox"/> 関連 <input type="checkbox"/> 一般	<現状分析，今後の方針等> 京都市循環型社会推進基本計画(2009-2020)を推進するため，更なる生ごみ減量を推進する。

平成23年度の実施状況 生ごみについて，3Rの意識向上を図るための啓発方法を検討しており，市民しんぶんへの折込みや，販売店，小学校などで配布する啓発媒体を作成している。

市会・監査・外部機関等からの指摘

III 今後の方向性

充実	(今後の方向性の理由及び具体的な内容) 地域におけるコミュニティ単位での堆肥化の実施地域を拡大するとともに，新たに小学校でモデル的に給食ごみの堆肥化を行うなど，生ごみの3Rを更に推進する。
----	---